

# 竹田 ゆかり 市政通信

〒248-0024 鎌倉市稲村ガ崎 5-31-11

TEL 090-3535-4474 E-mail yukari.ain@gmail.com



## 松尾市長、二度目の再議権行使

「再議権」とは自治体の首長が、予算や条例などについて議会で議決した後、その結果を不服として、再び審議し直すことを求める権利である。通常の議決とは異なり新たに2/3の賛成を得なければ、再議となった議案が否決されたことになるもので、見直しの議論も起きている。「再議権」の行使は、記録によれば2007年からの2年間、全国1800以上の自治体(当時)で15件しか行使されていない。それだけ再議権の行使にあたって、どの自治体の首長も慎重であると言える。にもかかわらず松尾市長は、任期中に3回も再議権を行使することとなった。

### 【松尾市長「再議権」行使までの経緯】

12月議会で市長提出議案「生涯学習センター条例の一部改正条例」が一票差で可決。(13対12) ↓多くの利用者や団体から「集会所の利用区分が一枠3時間から2時間に短縮されると、活動がしにくくなる」との多数の声が議会に寄せられる。(そもそも、2時間に短縮した根拠とされたアンケート調査は、多くの利用者や利用団体が知らない中、一般市民向けに行われた) ↓利用者の切実な声を受け止め、利用時間を3時間に戻す議員提出議案を2月議会に提出、2票差で可決。(13対11) 一枠3時間に戻る ↓松尾市長はこの結果を不服として議員提出議案について再議権を行使 ↓採決の結果、議員の2/3の賛成に至らず議員提出議案が否決される。 ↓一枠2時間となる 竹田は再議にあたって議員提出議案に賛成討論を行った。(内容は右下へ)

鎌倉かわせみクラブ

会派代表質問を行いました。

【主な質問項目】 スマートシティ推進事業・公共施設再編事業・平和推進事業・男女共同参画事業・緑地維持管理事業・廃棄物処理施設推進事業・生活困窮者への食糧支援・環境基本計画推進事業(ごみ・再生可能エネルギー・防災・地球温暖化対策)・包括的支援体制推進事業・ヤングケアラー支援の組織的取り組み・高齢者雇用促進事業・高齢者の社会参画・障がい者福祉・職員数の適正配置・交通不便地域の課題解消・JR駅の「スマートフォームドア」設置推進・深沢整備事業区域の地価評価・沿岸地域の避難対策(ハード対策)・生活保護申請・感染症対策事業・教育支援事業・スクールロイヤーの配置・ウルトラプログラム・コミュニティスクール・GIGAスクール・デジタル教科書・小中学校施設整備・生涯学習センター民営化・学校整備計画・商工業振興など。平和推進事業と不登校特別校設置については、再質問を行った。



### 竹田ゆかり賛成討論内容(抜粋)

……再議にあたって開かれた臨時教育委員会が秘密会とされたことは、市民軽視・議会軽視といわざるを得ない……市長の「再議権」行使について反対する陳情等が(一夜にして)18件寄せられている。純粹に学びたい、生き生きと学びたいという市民の声に市長は一顧だにすることなく、首長権限を行使して、利用区分の変更を進めようとする。この暴挙は、鎌倉市政に大きな禍根を残すだけではなく、10月から始まる利用区分変更により、市民の「活動のしにくさ」を今後、強いることになる。

「再議書」(再議とする理由説明書)によれば、12月に議決した条例は、「すべての市民にとって使いやすい施設と

することを目的としている」と説明している。すべての市民の中に、利用者や利用団体は入らないのか。利用者や利用団体は「使いにくい・活動しにくい」と声を上げている。この条例で、目的が達成されるといえるのか。また、再議書では、「広報かまくら・市のホームページ等で、すでに知らせている。10月からの利用予約を開始している……」と説明している。しかし抽選は3月31日を過ぎてからであり、予約確定はしていない。……議会議案による混乱は一時的なものであり対応可能である。利用者到我慢を強いることになる条例に戻すべきではない。再議に付すという「首長権限の行使は」まさに、「市民の声に耳をふさぐことに等しい」

(全文はブログに掲載中)

# 2022年度予算について

(過去最高予算額)

一般会計 671億6,000万円 前年比 9.5%増  
 特別会計 519億9,990万円 前年比 1.3%減

<1億円以上の経費を充てる主な事業>

史跡環境整備(永福寺・釈迦堂)	2億6,000万円
今泉CC臭気対策・名越CC中継施設整備	4億8,000万円
本庁舎等整備事業基金積み立て	6億2,000万円
公園維持管理(インクルーシブ公園設置)	4億1,000万円
小児医療費助成	6億7,000万円
放課後かまくらっ子事業	5億8,000万円
幼児教育・保育事業の無償化	38億1,000万円
私立保育所整備	4億6,000万円
旧鎌倉図書館整備	2億1,000万円
小中学校特別教室空調設備設置・校舎老朽化対策	24億2,000万円
道路維持修繕	5億9,000万円
橋りょう維持修繕	2億4,000万円
市営住宅集約化	1億9,000万円
商工業振興事業(鎌倉応援キャッシュレス割引キャンペーン)	2億9,000万円
大河ドラマ事業費	3億4,000万円
ICT教育環境整備	4億2,000万円

2022年度予算については、評価できる部分はあるものの、高齢者外出支援・子どもや高齢者の居場所づくり・交通不便地域の解消、図書購入費の課題等々、あたり前な市民生活や権利を保障する事業については、近隣市と比較しても予算額が少ない。より一層、市民ニーズや現場実態を的確に把握した予算立てとなるよう求めて、反対討論を行った。



## 子どもの家・子どもひろばを すべて指定管理にしてよいか？

「子どもの家」とは、共働き家庭等の小学生が、第2の家庭として放課後などに安心して過ごすことのできる居場所で、「子どもひろば」は、すべての小学生が、安心して過ごせる居場所である。

現在市内14か所の「子どもの家・子どもひろば」の運営は、指定管理者によって行われており、すべて株式会社による運営である。2月議会では、残る2か所(稲村ヶ崎・二階堂)についても、市の直営から指定管理者の運営とする議案が上程された。私は、すべてを指定管理にするのではなく、一部直営を残すことが重要であると考えこの議案に反対した。**理由は、市の直営での運営が、指定管理者による運営のモデルとなり、判断基準となると考えるため。**例えば、小学校給食は、現在16校中6校を直営として残している。その理由は、「直営が一つの物差しとなり、直営の良さ、指定管理の良さを、互いに学びあうことができるから…」と担当から聞いている。特に、放課後の子どもを預かる「子どもの家・子どもひろば」の管理運営は、子ども一人一人に丁寧寄りそい、専門性をもって臨機応変に対応できることが求められる。そのためには、**判断する「物差し」としての直営の存在が重要**と考える。(採決の結果、すべて指定管理に)なお、12月議会において、鎌倉市は外部監査委員から、**厳しい指摘**を受けている。

### <外部監査委員の指摘>

「鎌倉市は、『民間に任せられる業務は民間に』と言う施策に偏っている。なぜ自分たちでしないのか。自分たちで手掛けたらどうなるのかという視点で、業務内容をしっかり見極め、安易に民間に委託せず、自分たちで手掛けることで専門性を磨き、市民サービスの向上につなげてはどうか…」

以上は、外部監査委員就任あいさつでの言葉です。**議場内からは、めったにない拍手が沸き起こりました。**

### 第9回「竹田ゆかり市政報告会」

生涯学習センターホール 3月22日  
**どなたでも参加できる報告会です。**

初当選した2013年以来、毎年「竹田ゆかり市政報告会」を開催してきましたが、コロナ感染拡大により今回は3年ぶりの市政報告会となりました。パワーポイントを使って、左記のような内容を中心に報告致しました。

- 3年間で実現した主な内容
- 庁舎内行為許可審査基準撤廃
- 小中学校の特別教室に空調設備設置
- 児童支援専任教諭後補充非常勤講師配置
- 小学校「給食費公会計化」
- スポーツ振興センター給付金を保護者に支給する業務を学務課業務とする
- 私立保育園への補助単価等の改善
- 「学校教職員安全衛生協議会」設置
- 産業医学校訪問開始
- 交通不便地域のオンデマンド実証実験
- 鎌倉市の行政運営の特徴
- 2022年度予算編成の問題点
- 鎌倉市の財政力の現状
- 現在、鎌倉市で課題となっていること
- 議会でのこれからの取り組み

### 😊 お声掛けください

◆ 竹田ゆかり市政通信は、定例議会が終わるたびに発行しています。ポスティングは、サポートしてくださる方々にもお願いしていますが、すべてのご家庭に届いてはけません。

◆ ご希望頂ければ、郵送させて頂きます。

◆ ポスティングをして頂ける方(200部からお届けに上がります)。

◆ 市政に関する困りごと、お受けしています。